

AAF学校2010・東京校が目指すもの | 樋口貞幸 [NPO法人アートNPOリンク事務局長]

ひぐちさだゆき | フリーランス・アートアドミニストレーター。1999年ARTS STAFF NETWORKを設立。2003年、第1回全国アートNPOフォーラムin神戸の事務局に
関わったことを機にアートNPOリンクの事務局を担い、2010年より常務理事。NAMURA ART MEETING事務局、トヨタ・子どもとアーティストの出会い事務局に協力。

——8月23日より、いよいよ今年のAAF学校*1がスタートします。昨年に続き、今年もアートNPOリンクが企画されていますが、まずは、昨年のAAF学校のことから聞かせてください。どのような問題意識のもとに企画されたのでしょうか。

樋口 | 2009年のAAF学校を企画するにあたって、まず「政治」「当事者性」「アイデンティティ」の3つのキーワードを設定しました。そして、各回に「アクティビズムの系譜」「グローバル資本主義の弊害」「権力を帯びた社会介入」「合意形成の手法」といったテーマを設けました。東京で開催する講座ですので、東京のローカルリティを下敷きにしています*2。いま東京で繰り広げられている社会や政治に介入する(intervention)アートシーンには、どのような思想が流れているのかを知りたいと思ったのが契機です。政治は、私たちの日々の生活と無関係ではありません。生活全てが政治に帰結します。ワールドカップやオリンピックが政治と無縁な訳がありませんよね。アートにおいても同様です。いま、NPOや市民グループによるアート活動もまた、政治的主体たらしめる行為であるということに、なんとなく理解が広がってきている気がしていて、それを補うような講座を計画しました。

——実際やってみて、どのような収穫がありましたか。

樋口 | AAFが陥りかねない危惧への提起、たとえば、商店街や地域といった「場」を単位に介入するアートプロジェクトは、実は垂直型/啓蒙型であるということ。地域の文化的背景や歴史といった文脈をよく知らずして介入する方法は、ある種オリエンタリズムに陥る危険性があるし、自身が帯びている権力構造に無自覚すぎるのではないかと指摘がありました。そして、自身が帯びる権力をいかに自覚したうえでアーティストとしてのポジショナリティを獲得するかということ、フラッシュ・モブなど指導者無き『群衆』の群れ方の実践例のほか、「慎み深い身体」こそが現代における革命であるという、示唆に富む考えにたくさん触れることができました。〈考える〉ためには、「なんとなく違和感を覚える」といった直感的な、もやもやした感覚を育て大切にする必要のあるだろうとの意見がたいへん印象的でした。

——今年のAAF学校は「思考の平衡感覚」とタイトルが付けられていますか。

樋口 | 基礎体力を鍛えたら、つぎは平衡感覚を研ぎすまそうと。「動体視力」や「直感力」でもたぶん良かったのですが、ちょうど自民55年体制の終焉と政権交代があり、左翼だ右翼だとなんともナンセンスな話題が繰り広げられていたので、平衡感覚という言い方にグッときて決めました。ちなみに、「【平衡感覚】

とは、生体が運動している時や重力に対して傾いた状態にある時にこれを察知する働き。平衡知覚。」「【知覚】とは、思慮分別をもって知ること。」と辞書にありました。ほら、グッと来たでしょう？

——マレーシアのファイブアーツセンター*3より、マーク・テさん*4を招いた理由を教えてください。

樋口 | マレーシアという建国50年の若い国家がどのように国家アイデンティティを形成してきたか、多民族・多宗教の中どのように統治しているか、イスラームによって制限・検閲される文化や表現という事態に直面してアーティストたちはどのように政治や権力に向き合っているのか、とても興味がありました。また、マークのような若い世代は、独立後の混乱期を知りません。彼は現状をどのように理解し、どう変革していきたいと考えているのか、そのためにどのような活動をしているのかお話を聞いてみたいと思っています。彼はオルタナティブメディアなどにも積極的に取り組んでいて、アーティスト・コレクティブであるファイブ・アーツ・センターのメンバーでもあります。ファイブ・アーツ・センターの運営方法についても聞いてみたいことがありますね。

——第2回「講師」吉澤弥生+藤井光*5では、フランスの事例をとりあげています。今それを日本に紹介する狙いはなんでしょうか。

樋口 | 別にフランスのアートの事例を取り上げたい訳ではないんです。それよりも、芸術労働者たちが自分たちの権利をどのように獲得していくのかを考える必要性を切実に感じています。昨年の事業仕分けで文化予算が削減されそうになったり、児童ポルノ規制に乗じた表現の検閲と監視強化が実現しそうなときに、さまざまな声があがるべきだと感じたことが発端です。アートNPOリンクで緊急フォーラムを開催したとしても、ある理念に共感できるNPO同士では意見の集約を図ることはできるでしょう。けれども、声はもつと多様にあるべきです。声の大きな組織に集約されるのではなく、それぞれが独自に発言することができ、各自の意見を踏まえてクロスセクトラルに対話することが大事です。とまあ、そんなことを考えているんだよねと吉澤さんに相談したところ、ちょうど同じようなテーマで調査をしているということからこのような内容になりました。

マレーシアとフランス、どちらも海外だからとか日本と制度や背景が違うからと目を向けないのはもったいない。そこで蓄積された智から学ぶことはできます。このインタビューを読んでいて、どこかにグッと来た人には、ぜひ受講してもらいたいですね。

[AAF学校2010の詳細はこちら <http://arts-npo.org/aafschool2010.html>]

*1 AAF学校は、アサヒ・アート・フェスティバル(以下、AAF)の1プログラム。これまでさまざまな形式でAAF学校が開校されている。2009年より、アートNPOリンクがAAF学校の企画制作・事務局業務を手伝い、AAF学校in東京校2009を『思考の基礎体力』と題して開催。タイトルは、AAF事務局長でP3 art and environment代表の芹沢高志さんが2008年のAAF学校に名付けたものを引き継いでいる。この年は、アナキストたちの合意形成の考え方の紹介や、ドラムギザリングのワークショップ、マルクスのノート「機械についての断章」をSFとして朗読したり、ラッパー・カクマクシャカのライブなど、多彩なプログラムを展開した。[樋口]

*2 東京都の安心安全条例にみられるように、市民監視型社会が到来し、急速に寛容性が失われている。246表現者会議や宮下公園のナキパーク問題などが全国的に知られるようになったのもちょうどこの頃。[樋口]

*3 マレーシア・クアラルンプールに活動の拠点を置くアーティストとプロデューサーの共同体。昨年設立から25周年を迎えた。その活動は、演劇やダンス、音楽、ビジュアルアート、児童劇などさまざまな領域におよび、かつそれらプロジェクトは多様な背景をもったプロデューサーたちによって運営されている。日本を含むさまざまな国の支配と影響を受け、マレー系、中華系、インド系の3民族をはじめとする多民族国家・多言語社会であり、マレー系を優遇するプミトラ政策など、それぞれ民族間の交流が必ずしも活発には行われていないモザイク国家マレーシアにあって、社会的〈境界〉を軽やかに越境するアート活動を展開している。

*4 Mark Teh (マーク・テ)。演出家/パフォーマー/リサーチャー/教育者/Five Arts Centerメンバー。マレーシアの歴史や記憶、若者の問題に関するプロジェクトを通じて社会的な当事者性をテーマにしたアート活動を展開している。2002年以降コミュニティベースのアートプロジェクトを運営、デザイナーや映像作家、造形作家といった複数のアーティストとのコラボレーションによるパフォーマンスなどを手がけている。

*5 吉澤弥生(よしざわ やよい)。大阪大学大学院GCOE特任研究員/NPO法人地域文化に関する情報とプロジェクト[recip]代表理事。専門は芸術社会学。労働、政策、運動、地域の視座から現代芸術を研究。

藤井光(ふじい ひかる)。美術家/映像ディレクター。1995年渡仏。フランスでメディア・アーティストとして活動を始めるが、2005年帰国以降、現代日本の社会政治状況を直截的に扱う表現活動へと転換。社会運動と芸術の関わりについて制作および研究を行なっている。



上 | AAF学校2009・東京校 講義風景
中 | AAF学校2009・浜路島校 講義風景
下 | ファイブアーツセンターのメンバー (左端がマーク・テ)

AAF学校2010・東京校
「思考の平衡感覚」

8月23日[月] 18:00-20:30
「マークに聞く、アーティスト共同体運営の秘訣とアートの可能性」
講師 | マーク・テ (Mark Teh)

9月13日[月] 18:30-20:30
「アーティストの労働と権利を考える」
対談 | 吉澤弥生+藤井光

料金 | 全2回=4,000円/1回=2,000円/学割1回=1,500円 [*予約制]
申込方法 | 下記を記入のうえ、FaxまたはE-mailで申込み。
お名前/E-mail/電話番号/参加日程
申込先・問合せ | アサヒ・アートスクエア事務局 AAF学校係
Fax: 03-5608-5319 / E-mail: aafs@arts-npo.org / Tel. 090-9118-5171

主催 | アサヒ・アート・フェスティバル実行委員会
共催 | NPO法人アートNPOリンク
助成 | 財団法人アサヒビール芸術文化財団
特別協賛 | アサヒビール株式会社
協力 | 甲斐賢治 (NPO法人remo)

イベント情報

INFORMATION

[その他のイベント | 8月-9月]

Asahi Cafe Night 「デバシシュ・バタチャルヤ」

日時 | 2010年8月15日[日] 16:30 開場 / 17:30 開演
料金 | 予約4,500円/当日5,000円(全席自由)
出演 | Debashish Bhattacharya
<trinity of slide guitars>, Subhasis Bhattacharya <tabla>, Tripti Bhattacharya <tanpura>, Saicobaba (ヨシダダイキチ YOSHIMI YO2RO)
予約・問合せ | アサヒ・カフェナイト実行委員会 (P3 内)
Tel: 03-3353-6866
web予約: <http://www.p3.org/aas/>

主催 | アサヒ・カフェナイト実行委員会
企画制作 | P3 art and environment
協力 | キャロサンブ
特別協賛 | アサヒビール株式会社
提携 | すみだ川アートプロジェクト
*この他詳細は <http://www.p3.org/aas/>

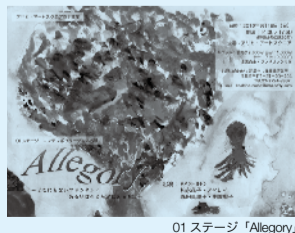


劇団山の手事情報(二本立て公演)「オイディプス王」「タイタス・アンドロニカス」
日程 | 2010年9月2日[木]-12日[日]
*開場・開演時間の詳細は、<http://www.yamanote-j.org>にてご確認ください
*途中、休館日をはさみますのでご注意ください
料金 | 2演目セット券8,000円、前売

一般4,200円、前売一般(B)3,700円、当日一般4,700円
前売高校生以下2,000円/当日高校生以下2,500円
出演 | 山本芳郎、倉品淳子、浦弘毅、水寄真弓、山口笑美、川村岳、岩淵吉能、斉木和洋ほか
予約・問合せ | 山の手事情報社オフィス
Tel: 03-5760-7044
e-mail: ticket2010@yamanote-j.org
主催 | 有限会社アップタウンプロダクション
協力 | EU・ジャパンフェスト日本委員会
助成 | 文化芸術振興費補助金(芸術創造活動特別推進事業)
*この他詳細は <http://www.yamanote-j.org/>

01 ステージ〈コンテンポラリーダンス公演〉「Allegory」——どこにもないファンタジー、あるいはそこら辺りにあるお話——

日時 | 9月19日[日] 14:00開場 / 14:30開演、17:00開場 / 17:30開演
料金 | 前売3,500円/当日4,000円(学生・子供2,000円)
出演 | KASHIHO、松永茂子、アレレイ、春田麻耶子、由愛典子
予約・問合せ | 花柳かしほ舞踊研究所
Tel: 03-3724-8367
e-mail: kashiho.moon@mbr.nifty.com/
主催 | 01 ステージ



桜月流美剣道一門公演「第十回 美剣の会」
日時 | 9月25日[土] 14:30開場 / 15:00開演、18:30開場 / 19:00開演

26日[日] 13:30開場 / 14:00開演、17:30開場 / 18:00開演
料金 | 前売3,500円/当日4,000円
演出・振付 | 松木史雄(第一師範)
出演 | 宗家・神谷美保子、石綱寛、戸田朱美、吉田理恵、一宮由紀子、丸山亜紀子、尾鷲成也、相澤美千子、生田実、名古屋唯彰、松岡功次、宇野剛、石川奈緒美、安川美千代、伊藤藤彩、三岡史宜、宮戸里菜、森岡泉、橋詰昌平、他
予約・問合せ | J-ステージ・ナビ
Tel: 03-5971-9002
e-mail: infojsn@j-stage-i.com
主催 | 桜月流美剣道
*この他詳細は <http://www.o-getsu.com/>



劇団 DOGADOGA+(plus) 第八回公演「偽作・不思議の国でアリス」
日程 | 9月29日[水]-10月4日[月]
*開場・開演時間の詳細は、<http://www.doga2.com> でご確認ください
料金 | 前売4,000円/当日4,500円
出演 | 戸田佳世子、黒沢美香、浦川奈津子、kumico、松本都、梨本翠子、中田有紀、他ドガ女多数、林野健志、斉藤藤、奈良坂篤、櫻井正一、J・橋口裕、他ドガ男多数
予約 | DOGADOGA+(plus) SHOP
<http://www.doga2.com/> (携帯・PC)
Fax: 03-5662-1245 (DOGADOGA 制作)
問合せ | DOGADOGA+
Tel: 03-5662-1245
e-mail: info@doga2.com
主催 | 劇団 DOGADOGA+(plus)
*この他詳細は <http://www.doga2.com>